

六年生ありがとう週間の意味

校長 山田 浩之

二月の後半に「六年生ありがとう週間」が行われました。活動のねらいは、一年生から五年生が、六年生に感謝の気持ちを抱き、その気持ちを表現すること、六年生はそれを受けて、自らの一年間を振り返り満足感と充実感を深めて卒業へと気持ちを高めていくことにあります。一年間で、最も感謝の言葉が飛び交う心温まる期間です。

同時に、この活動には、もう一つの意味があります。それは、五年生のステップアップです。六年生に感謝を伝えるということは、六年生はお客様になります。そうになると、五年生がリーダーとして、計画を立て、取り仕切っていくかなければなりません。初めての経験では、うまくいかないこともあります。しかし、経験を重ねるうちにできるようになることもあります。五年生が、四月から様々な場面で活躍するための見習い期間とも言えます。

先週、ありがとう週間のオープニングがありました。たんぽぽ班で集まり、ゲームをして遊んだり、一から五年生までが一人ずつ感謝の言葉を述べたり、メッセージカードが手渡されたりしました。五年生には、進行のシナリオが配られているので、それを読めば、

活動は進みます。しかし、何もかもが予定通り進むわけではありません。そんな時は、近くにいる教員が手助けをすることもあります。

ある班では、一人一人がメッセージを言う段になって言葉に詰まってしまふ子どもがいました。班のメンバーは、しばらく待っていました。なかなか話せません。どうなるのかな、と見ていると、五年生のリーダーが、その子どもとところに近寄って何を話したいのか聞き取り、代わりに六年生に向かって伝えていました。状況に合わせて対応している姿です。

この姿は、新潟小学校で高めようとしている「支え合う心」が発揮された姿でもあります。「やり抜く力」を支える姿でもあります。「やり抜く力」というと、根性とか根気、ひたむきに努力を続ける姿勢のような精神面を思いがちです。もちろん、それらも十分必要なのですが、目的を達成するためには、状況に合わせて立ち振る舞うことも大切です。強い心と柔軟に対応するスキル、それが合わさって、「やり抜く力」になるのだと思います。五年生は、ありがとう週間への取り組みを通して大切な力を培っているのです。